



ちょっと素敵な話

No.14

福成会で教えてもらえたこと

私は平成二五年二月に転職をして福成会に入りました。

民間企業で商品の工程管理や品質管理の仕事をしていましたが、経理関係の仕事がしたいという願望から転職活動をし、福成会と出会いました。

転職をする際の基準は職種への興味で、業種としては「これは無理だ」と感じるもの以外であれば問題ないと考えていました。

福成会に入るまでは、障害をお持ちの方と接した事がありませんでした。実務もほぼ未知の世界であり、何も解っていない所からのスタートでした。

経理の仕事が始めてから数か月、目の前の仕事を覚えるのに精一杯で、ただ黙々と自分に与えられた仕事をこなしていました。そして、数字や文章を見て業務をしているうちに、ある事に気付きました。単純ですが、数字を見るという事は、その数字の中身を理解する事だと深く感じたのです。そう感じた事によって、自分はいったい何のために業務をしているのか解らなくなる錯覚に陥りました。

障害をお持ちの方の支援をしている事業の運営という事は理解していましたが、事業所とは離れた場所で業務をしている事から、障害福祉の仕事を感じることが出来ていないことで、こういった錯覚に陥るのだと感じました。

同じ福成会の職員さんがとても遠くの存在に感じ、自分の精神状態から上手く溶け込めないで、マイナスイ思考に陥っていました。そんな中、法人内で全体研修があり、「基本理念の具体化から考える虐待防止」というテーマの研修に私も参加する事になりました。基本理念を軸に考えて、虐待防止につなげるというコンセプトの内容でしたが、この研修の中に自分が変わっていくヒントがたくさんありました。

「どんな時も基本理念を軸に置いて考える」

これを自分の中に取り入れて、業務で煮詰まったり、考える場面で意識してみるようにしました。

研修から数か月、自分の行動の変化に気付きました。

利用者さんにお会いすると、以前は緊張していた私ですが、自然と笑顔であいさつが出来たり、笑い話ができるようになりました。また、出勤途中で利用者さんに会うと、利用者さんの方も笑顔で私に接してくれるようになりました。

たくさんの変化を、私自身とても嬉しく思いました。仕事の大きなやりがいにも繋がりが、悩んでいたものがどこかへ吹き飛んでいきました。しかしこれは、自分自身のモチベーションをあげるための、一歩目の動機づけに過ぎません。

私は事務方として運営を後ろからサポートする仕事ですが、福成会職員の一員として、人の気持ちを理解する姿勢をしっかりと持ち、福成会にいるすべての人たちとしっかりと繋がりを持つようになりたいと思います。そして、これからも利用者さんや職員さん、地域のために少しでも貢献ができるように努力し、前進していきたいと思っています。